

1年の計は元旦にあり

(3学期始業式校長挨拶より)

みなさん、おはようございます。また、年の始めでもありますので、あらためまして あけましておめでとうございます

新しい年が始まりました。年頭に当たってみなさんに一つ聞いてみたいと思います。みなさんの今年の抱負はなんですか、そしてその実現のためにどんな計画を立てたでしょうか。

元旦はとてもキリの良い日、いわゆるハレの日であり、今日は、3学期の始業式・儀式というハレの日でもあります。

このようなハレの日(「非日常」もともとハレとは、折り目・節目を指す概念)にこれからのことに向けて志・計画を立てて、自分自身に誓うことはとても大事なことです。

このことに関して、昔から言われてきた言葉があります。

『一年の計は元旦にあり』です。一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきだ、

一年をどう過ごすかの計画は元旦に立てるのがよいということですが、さらには、物事を始めるにあたっては、何事も初めが肝心であって、事前に志をもって、計画をたて、周到に準備すべきことをいっています。

ここでいう計とは、計画のことであり、抱負であり、志のことです。

今日のこのことばは、4月に話した有志竟成に繋がります。発心・決心・継続心という森川翁の三心もお話ししましたが、これも同じく、志をもって継続することの大切さを説いたものです。

非日常の清新な空気が流れる今こそ、抱負を確認し、決意を新たにし、あるいは確認し、志に向かってスタートを切る日にしてほしく思います。

ところで、この言葉「1年の計は、元旦にあり。」には、前後があります。全体を読みますと、次のようになります。

『一日の計は朝にあり 一年の計は元旦にあり
一生の計は勤にあり 一家の計は身にあり。』

この4つを四計とって、昔から大切にしてきました。

『一日は朝の気持ちの在り方で決まり、一年は年の始めの決意で決まる。

人生はまじめに勤めることで決まり、一家の将来は身の振り方・生き方で決まる。』という意味です。

「一年の計は元旦にあり」という言葉は、この四計の内の2番目のもので、「何事も最初に計画や準備をすることが大切であり、初めの計画が適当だと、全ての物事が上手くいかない。まずは、強い志と用意周到な計画をもて」という諺として使われています。

それでは最後に、目標に向けてがんばり続けるために5つのことをお話しします。

1 長い計画での目標と短い計画での目標、両方を立てる

何か月単位の目標(長期計画)と、1か月とか1週間とかの比較的短い目標(短期計画)を設定します。そうすることで、計画が進めやすくなります。万が一のときの調整期間を設けておくのもいい作戦です。

2 誰かに宣言する

誰かに宣言するのは「ことばは言霊、ことばには不思議な力が宿る」、「言葉には責任が伴う」、ということから、いいモチベーションになります。誰かは大事な人がよいでしょう。だって、自分を欺いて、その上さらに大事な人まで欺けますか。

3 誰かと一緒に目標に向かう

一緒に目的に向かう仲間がいるのは実にいいことです。部活動はもちろんですが、勉強だってそう。「受験は団体戦」といいますが、これは紛れもない真実。同じ目標に向かう仲間の存在は大きなエネルギー源です。

4 失敗しても、また始める

失敗しても、そこで終わらず、また始めること。とにかく失敗をおそれないこと、だめだなんて思わないことです。みんな、初めての人生をやっているのです。だから、失敗はつきもの。

失敗のところでやめれば失敗のままですが、続ければ、成功に繋がります。成功している人は、失敗のままで終わらない人たちです。

5 自分に自信を持つ

これは絶対に必要なことです。理由はありません。

特に3年生、ここまで来たら後は自分を信じることのみです。

以上の5つ、参考にしてみてください。

最後になりますが、今年は申年、申という漢字の横に、人の状態を表すにんべんを付けると「伸びる」という漢字になります。

西暦2016年の2016は、平成28年の28で割り切れます。次に割り切れるのは43年後の平成71年、ということでこれは滅多にない、「特別」なことです。

また、28は数学でいう完全数「perfect」number(その数自身を除く約数の和が、その数自身と等しい自然数のこと。実際、 $28 = 1+2+4+7+14$)です。

ということで、みなさんにとって今年が「伸びる」年、「特別」な年、そして「パーフェクト(完全)」な年になりますように願ってやみません。

みなさんのがんばりを期待して、今年最初の挨拶とします。

(完)